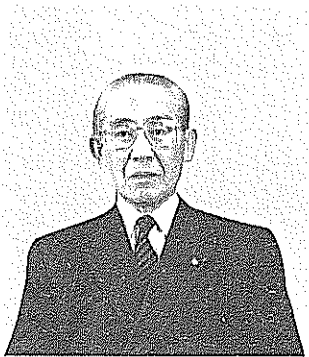


二十一世紀への ステップとなる年に

市長 小笠原 喜郎



明けましておめでとございます。皆様にはご家族おそろいでよい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年南国市は市制施行三十周年を迎えます。諸法規の制約があり、人口の急増はないものの、予算規模から見た市の骨格は格段の伸長を遂げています。人間にたとえると日本経済の高度成長が始まった青年期から今や壮年期へとさしかかっていると云えましょうか。

この三十年を回顧し、反省して二十一世紀へのステップとなる年にしたいと考えております。記念式典は本市にふさわしい形で厳肅にかつ盛大にとり行うことができれば幸いだと思っております。また、記念事業として昨年から進めている文化会館の建設計画もできるだけ明確な見通しをつけ、市民の皆さんにお示しできるように現在作業を進めております。

行政の基本として財政再建、同和対策事業の推進、教育施設の充実、公害のない企業誘致を市政の重要な柱として努力していく姿勢に変わりはありません。

南国市は田園都市として第一次産業、特に農業は盛んですが、今後は量から質の時代に移っていくと言われております。今から作目の研究や経営規模の問題などを考え、進むべき道を真剣に模索しなければならな

新年

いと思います。豊かな都市として発展するためには低迷している第二次産業の振興も図らなければなりません。農業は次第に兼業化する一方、反面大規模経営化してきておりますが、それは零細農家が次第に消え、潜在的失業者が増えることを意味し、企業誘致によってその受け皿を作る必要があります。

まちの活性化と住環境整備については、水道が次第に普及し、大規模な下水道事業が着々と進んでいることや、同和対策事業で住環境の整備が進んだことも大きなきっかけとなり、皆さんの間に住環境の整備と市街地の活性化の気運が盛り上がってきました。どこの国の都市計画でも住民が積極的でなければ進みません。そういう意味で今の状況は心強く、そろそろ本格的に着手する時期が来たと考えており、地元の協力をお願いしながら進めていきたいと思っております。

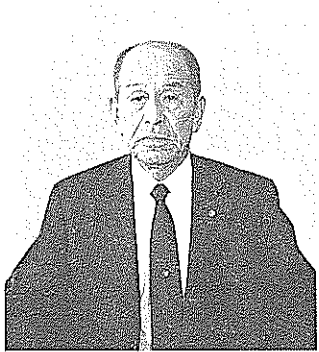
生活の保障がなければ目標としている美しい田園都市も文化都市もありえません。高知市の衛星都市としてだけではなく、古い文化と伝統を見直し、お互いに競争しあうて独自の個性を発揮していくようにしなければなりません。

今年も皆様にとってよい年でありませう祈念いたします。

市制三十周年を節目に

更なる発展を

議長 門田 益治



明けましておめでとございます。

ご家族おそろいでよいお正月をお迎えになったことと拝察し、心からお慶び申し上げます。

長年の夢「四国が島でなくなる日」が実現し、新時代の到来で人と物の交流が盛んになり経済、産業ばかりでなく文化や日常生活まで大きく変わってまいりました。本市にとって空港に続く本格的な高速道時代を迎え、高知県の表玄関として、また県下第二の都市として飛躍を図ろうとする年でありませう。

申すまでもなく橋が架かれれば車による観光客の増大は必至であります。この観光客をいかに受け入れ経済効果を高め、単なる通過型の観光ではなく、滞在型の観光にするかを考えなくてはなりません。史跡等市内に点在する観光資源を活用し、点的観光から線の観光へとその方策を検討することが本市の課題だと思っております。本市にも今年対応可能な宿泊施設も完成されると聞いております。竹下首相の提唱する「ふるさと創生論」を受けて自治省が新規施策としてそれに本格的に取り



組むわけでありませうが、高知県の核的地域でありませう本市も交通ネットワーク整備等により一段と発展の年となりますよう議会挙げて取り組んでまいりたいと思っております。

また、私たちのふるさと南国市は昭和三十四年十月一日市民の皆さんが夢ふくらませて市制を施行し、今年壮年にさしかかる三十路を迎えるわけでありませう。市の特性、個性を生かした記念事業の計画が実行委員会の方々の手で進められております。世紀二千年まで後十年余りありますが、新しい世紀へ今羽ばたきがないければなりません。豊かな伝統と長い歴史が刻まれた文化、そして恵まれた土地環境を基に四万八千市民のご指導、ご支援をいただきまして市制三十周年を節目として更なる発展に議会といたしまして最善の努力をしてまいりたいと思っております。

市民の皆さんのより一層のご協力をお願いし、併せて年の始めに当たり今年もご多幸でお過ごしくださいませよう祈念し、ご挨拶といたします。